

甲南女子大学の女性教育の今後を考えるプロジェクト

これからの〈女性教育〉の話をしよう

NEWS LETTER

なぜ私たちは、わざわざ“女性だけを集めて教育する”のか？

かつて女性は、教育を受ける機会が限られていました。女性も高等教育を受けられる「女子大学」が誕生したのは戦後のことです。その後女子学生の3人に1人は女子大学に進学した時代もありましたが、2015年には6人に1人となりました。2018年6月の模試では、近畿圏の女子大志望者は全体の8%のみだったと言われています（2018年進研アド調べ）。今や共学大学も女性の学問ニーズの変遷に応じて広報をうち、女性の比率を増加させています。今後女子大学は、女性だけをターゲットにするという圧倒的不利な状況下で、共学大学との差異化を明確にし、説得力のあるビジョンを打ち出さない限り生き残ることはできないでしょう。

なぜ私たちは、わざわざ“女性だけを集めて教育する”のでしょうか。現代において女子大学が果たすべき役割、存在意義はもはや無いのでしょうか？女子大学である本学は、今の女性たちを力づけるメッセージを十分に発しているのでしょうか。「なぜか女性しかいない大学」になるのか、「本気で女性を応援する“女性のための女子大学”」になるのか。私たちは100周年を前にその分岐点にいます。本学の存在意義に関わる議論への皆様のご参加をお待ちしております。

プロジェクト代表 学長補佐(女性教育担当) 野崎志帆



甲南女子大学の女性教育

学長 森田勝昭



甲南女子学園は 100 年にわたり全人的な女性教育を実践してきました。テクノロジーの進展とグローバル化による社会の大変動期に学園創立 100 周年を迎え、本学には知識基盤社会の Society 5.0 を生き抜くための女性教育が求められています。あらためて歴史を振り返りながら、人類のもうひとつの可能性（オールタナティブ）としての女性の能力開発教育を推進し、女性教育の拠点校として社会に貢献します。

昨今、テクノロジーの発展の結果、デジタル格差が生じるとの予測がなされています。デジタル技術を駆使する頭脳労働層と、労働力を提供する層に二極化し事務職が消滅するというものです。この格差をどのように埋めるのか。本学の教育にとって大きな課題になることは間違いありません。

この困難な問いへのひとつの解として伝統のリベラルアーツ教育を女性という軸で再構築し、専門職教育とのベストミックスを生み出して女性をエンパワーする方向があります。また、多義的で多声的な校訓「清く 正しく 優しく 強く」を科学的マインドセット教育へと更新し、変化の時代を生き抜くしなやかな知を鍛えるという方向もあります。本学は多様な可能性を検証しつつ女性教育システム構築に邁進します。



「甲南女子大学の女性教育の今後を考えるプロジェクト」概要と今年度の計画

プロジェクト代表 学長補佐（女性教育担当） 野崎志帆

「甲南女子大学の女性教育の今後を考えるプロジェクト」（略称：女性教育プロジェクト）は、2018 年度からスタートした「女性教育カリキュラムプロジェクト」（講義科目の中に「女性」「女性性」という視点から授業テーマにアプローチする回を導入し、女性教育について検討する）を核としながら、本学の女性教育、女子大学としてのミッションについてさらに議論を活性化することを目的に立ち上げられました。

本プロジェクトは 2019 年度教育イノベーションプロジェクトに採用され、プロジェクト代表の野崎が学長補佐（女性教育担当）としてこれを遂行していくことになりました。プロジェクトには、学部学科、部署を越えた 21 名の教職員が共同者として関わり、看護学科の教員 23 名が本プロジェクトの趣旨に賛同してくださっています。

本プロジェクトの 今年度の計画

1. 女性教育カリキュラムの全学的推進
2. 本学の女性教育の展開に寄与する情報収集のための出張者学内公募
3. 「本学の女性教育を考える会議」の開催（年 4 回）

2019 年	5 月 29 日	水曜 16:00～18:00（終了）
	7 月 29 日	月曜 13:00～15:00（前期カリキュラム意見交換会）
	11 月 20 日	水曜 16:00～18:00
2020 年	2 月 12 日	水曜 10:00～12:00（後期カリキュラム意見交換会）
4. ニュースレターの発行（年 2 回）
5. 100 周年プレシンポジウムの開催（来年 2 月を予定）
6. 女性教育を推進するための体制づくり：女性教育研究所（仮）開設の構想



教育イノベーションプレゼンで発表する代表の野崎

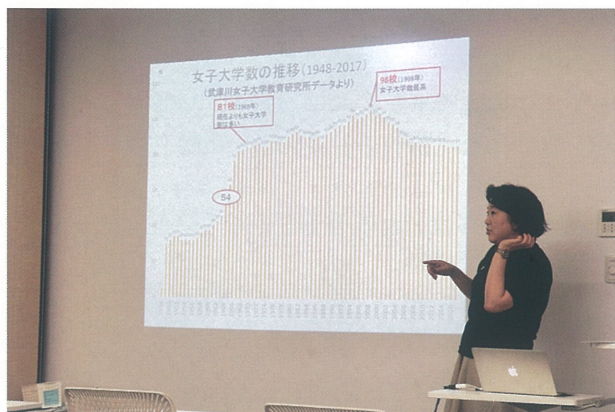


教育イノベーションプレゼン参加者



第1回「本学の女性教育を考える会議」(2019年5月29日開催)に参加して

広報課 プロジェクト共同者 柴山晴江



話題提供者の高橋先生

「甲南女子大学の女性教育の今後を考えるプロジェクト」代表の野崎先生(多文化)から会の趣旨説明、高橋先生(多文化)から日本の女子教育の歴史と課題についてのお話があり、意見交換があった。

野崎先生の、「なぜ今、女性だけを集めて教育するのか?」という問いかけに、本学の教職員はどれだけ答えられるだろうか。女性の共学志向が顕著となっている中で、女子大は社会に対して、女性をリードする役割を明確に示さなければ、存在理由がなく消滅していくだろう。

野崎先生からは、女性教育を推進する体制作りとして、学園100周年に本学に女性教育研究所の設立の提案があり、参加者から熱のこもった意見が飛び交い、強い関心と期待が感じられた。



第9回大学の未来を考えるネットワーク勉強会(2019年6月5日)に参加して

文化社会学科 プロジェクト共同者 池田太臣



大学の未来を考えるネットワーク勉強会

大学未来ネットの今年度の最初のテーマは、「本学の女子大学としての存在意義とは?」である。まさに本学の在り方の根幹にかかわるテーマである。

まず、米田明美先生から「女子大学の歴史と教育」と題して報告があり、つづいて野崎志帆先生から「女性教育の意義について考える」との内容で発表があった。

フロアからも活発な意見が出て、この問いへの関心の高さと、それに答えることの難しさを同時に感じた。個人的な感想だが、女子大学には、自分たちの在り方に関する「新しい理念」や「新しい言葉」が必要とされているように思う。一朝一夕に答えが出る問いではない。だからこそ、こういった場で、全員で問い続けることが必要なのだと思う。



作家佐藤愛子氏(高女17回生)にお逢いして

日本語日本文学科 プロジェクト共同者 米田明美

2017年の年間ベストセラーは、佐藤愛子氏の『九十歳。何がめでたい』(小学館)であった。佐藤愛子氏は、本学園の前身甲南高等女学校ご卒業の大先輩。在学時「私の母校である甲南高等女学校は『淑徳を涵養』するのが目的の学校だった。どちらかといえば学問よりも礼儀作法や質実であることに重点がおかれていた。『甲南の生徒であることの誇りを持って』といわれ、何かという『甲南の生徒たる者は』とか『甲南の恥』だとかいう言葉が先生や上級生の口から出てくるのであった」という日々の中、「それでも女学校生活は楽しかった」と『淑女失格—私の履歴書』(集英社文庫)に記されている。だがその後「私は楽天的で幸福への自信に満ち、行く手に待ちかまえている過酷な運命への予感など全くなかったのである」となる。過酷な運命とは、2度の結婚と離婚、そして2度目の夫の作った巨額の借金を返済しながら、シングルマザーとして働かねばならなかったのである。ペン1本携え、どんな些細な仕事でも引き受けたと言う。直木賞の受賞は45歳の時。受賞作は、2度目の離婚の顛末を題材

にした『戦いすんで日が暮れて』であった。以降数々の文学賞を受賞なさっているご活躍は、ご存知の通り。

前置きがすっかり長くなってしまったが、この5月20日に御年96歳の佐藤愛子氏にお逢いする機会を得た。背筋をピンと伸ばし、ハキハキとよどみなくお話をなさる姿は、70歳と言っても十分通じるお姿であった。お話の中で「私など甲南の恥で」とおっしゃったが、幾多の困難を乗り越え「人生は思うに任せないことの連続ですよ。だけど、そこが面白いんです。何もない人生だったら、私にはつまらなかったと思います」(『それでもこの世は悪くなかった』文春文庫)という心意気こそ、今の若い人たちが持つべき気概であろう。凛としたお姿は、十二分に「淑女」でいらっしゃると思います。



米田明美先生

女性教育カリキュラムの授業やってみた！ 「アメリカ文化・社会論」(2018年度後期)での実践


多文化コミュニケーション学科 岩崎佳孝

アメリカの文化や社会を学ぶ有効な手段として、本講義（後半部）では今後本格化する合衆国大統領選挙の模擬選挙を行った。全学生は共和党と民主党の女性大統領候補、候補のスピーチ作成を補助する選挙スタッフ（以上は立候補した学生）、複数回のスピーチを聞いた後投票し大統領を選ぶ有権者（残りの学生）のいずれかの立場で、（簡易化しているが）実際と同様のプロセスを体験した。今期は共和党候補1名、民主党候補2名の選挙戦となった。

これは、日本の女性の政治参加を今以上に促進するため、政治リテラシーを学生のうちに身につけさせようという試みでもある。候補には視角を合衆国にとどめず広く現代社会におき、とくに女性が直面する課題も争点に据えるよう指示した。各候補は共和、民主両党の立場—それらは市民の両側面たるいわゆる「保守」と「リベラル」的志向を如実に体现

している一に沿い「移民政策」「累進課税の是非」というテーマに加え、「女性が大学で高等教育を受ける意味や意義」を、女性にとって出産の意味やその適切な時期という論点まで持ち出し論を戦わせた（勝敗の行方については私にお問合せください）。

講義終了後学生からは、女性差別をなくすことは政治とも密接な関りがあることや、自分の意見をしっかりとって主張・熟議し問題解決ないしは妥協点を目指す、デモクラシーのあるべき姿を知ることができた、といった意見が多く寄せられた。



他大学の取り組み紹介

武庫川女子大学シンポジウム

「女子大学の教師教育を創る」(2019年5月25日)に参加して
看護学科 プロジェクト共同者 友田 尋子

標記シンポジウムは、武庫川女子大学が教育学部教育学科および学校教育センター研究部門を設置、それに続いてステーションキャンパスの建設、経営学部、食物栄養科学部、建築学部開設準備と創立 80 周年を記念し開催したものである。議論の焦点は、女子大であることを強みにした教員養成とその課題であった。

大学の理念と女子大学のこれからというテーマで、同志社女子大学、京都女子大学、日本女子大学、奈良女子大学のそれぞれの取り組みが報告され、そこでは、女子大学が前提としてきた「女性性」の意味が変動する中、女子大学の自校史の継承と自立性および個性の確保には、新たな女性像を創造することが必要であると述べられていた。さらにその先に、女性の強みを活かしたキャリア教育を探究することが重要であることがわかった。



「女子大学の教育教育を創る」

武庫川女子大学 教育学部教育学科

武庫川女子大学 学校教育センター研究部門

設置記念シンポジウム

武庫川女子大学はこれまで、世の中の教育に、多くの貢献を人数は少ないながら、高い実績をあげ、社会から高く評価され、一歩一歩、組織の力を伸ばし続けてきた。近年の教育の状況は、教育の質を高めることが求められ、大学や女子大学が求められる役割も大きく変化する中、武庫川女子大学が学校教育センターを設置し、女子大学の教育について、改めて研究をすすめることと決定して行われた。このシンポジウムでは、武庫川女子大学に由来する教育の歴史を、改めて振り返ることとなる。

このシンポジウムは、参加者全員が楽しめるよう、随時行われる。



「女子大学の教育教育を創る」

武庫川女子大学 教育学部教育学科

武庫川女子大学 学校教育センター研究部門

設置記念シンポジウム

武庫川女子大学はこれまで、世の中の教育に、多くの貢献を人数は少ないながら、高い実績をあげ、社会から高く評価され、一歩一歩、組織の力を伸ばし続けてきた。近年の教育の状況は、教育の質を高めることが求められ、大学や女子大学が求められる役割も大きく変化する中、武庫川女子大学が学校教育センターを設置し、女子大学の教育について、改めて研究をすすめることと決定して行われた。このシンポジウムでは、武庫川女子大学に由来する教育の歴史を、改めて振り返ることとなる。

このシンポジウムは、参加者全員が楽しめるよう、随時行われる。



[illegible]

関連イベントカレンダー

- (学内)女性教育カリキュラム意見交換会
7月29日(月)13:00～
- 男女共同参画推進フォーラム in 国立女性教育会館
8月29日(木)～8月31日(土)
- 女子大学連携ネットワークミーティング in 東京
9月2日(月)
- (学内)シンポジウム「北米に生きる
マイノリティ女性たち」
10月26日(土)13:00～
- (学内)本学の女性教育を考える
会議
11月20日(水)16:00～



本学の女性教育の展開に寄与する
情報収集のための出張者大募集!

教育イノベーションの予算を使って情報収集をして
 くださる方を募集しています。お気軽にご活用くだ
 さい。

期間：2019年4月1日～2020年2月29日
 手続きの方法：事前にご出張内容(いつ、どこに、だれが、どのような用件で)を
 野崎(shiho_n@konan-wu.ac.jp)と、予算管理担当の
 木村野恵(no_e@konan-wu.ac.jp)までメールでご連
 絡ください。

国立女性教育会館「大学1年の女子大生が読んでおくべき本

昨年引き続き、本学図書館に国立女性教育会館(NWEC)提供のパッケージ貸出し図書が届きました。今回のテーマは「大学1年の女子大生が読んでおくべき本」です。図書館本館2階C階段前木製書架に設置します。学生のキャリア形成やサポートに役立つと思いますので、ぜひご利用ください。

これからの〈女性教育〉の話をしよう
NEWS LETTER vol.1 2019 Summer
発行日 2019年7月
発行元 甲南女子大学の女性教育の今後を考えるプロジェクト
問い合わせ 代表 野崎志帆
Tel 078-413-3044 e-mail shiho_n@konan-wu.ac.jp